

ヤマジノギクの新規栽培系統の育成

農業研究部 花きグループ

1. 研究の背景

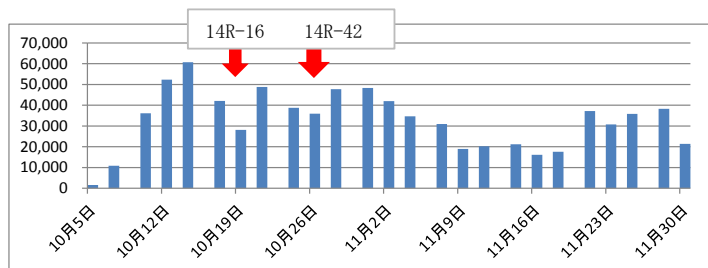
本県オリジナルのヤマジノギクは、露地栽培が可能な低コスト花きとして産地拡大が期待されている。ヤマジノギクは開花時期が異なる品種(系統)のリレー栽培により10～12月の販売を行っているが、一部の系統に立枯れや草姿の乱れが生じ、その時期の出荷量が減少することが、普及上の課題となっている。そこで、出荷量が減少する時期に新規優良系統を導入することにより、ヤマジノギクの安定出荷を図る。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

2013年に採種し、2014年から2015年にかけて栽培試験を行った約5000系統の中から、花色、草姿に優れかつ生産面積が減少する時期に開花する8系統を選抜した。その8系統を2016年に3振興局管内の栽培農家で試作に供した結果、特に評価の高かった3系統を、2017年から新たに栽培系統として現地に導入を図る。

表1 新規導入系統の特性

系統番号	花色	平均開花日 (月・日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	握り長 (cm)	分枝長 (cm)	花房幅 (cm)	有効分枝数 (本)	場内試験における 立枯れ発生の有無	現地試験における 立枯れ発生の有無
14R-16	紫	10月19日	74	70	28	43	19	3.7	少	無
14R-42	紫	10月28日	66	52	29	33	16	5.6	無	無
14P-13	紫ピンク	11月2日	74	61	27	46	20	4.0	無	無



特に14R-16、14R-42については、立枯れで生産が落ち込む時期の新規栽培系統として有望(図1)

図1 平成28年度ヤマジノギク出荷実績(10～11月)

3. 期待される効果

- ・14R-16は、立枯れが発生しやすい03R-2(平均開花日10/25)の代替系統として有望。
- ・14R-42は、立枯れが発生しやすい02R-23(平均開花日11/1)の代替系統として有望。
- ・14P-13は、ピンク色の出荷がない時期の新規系統として有望。
- ・これらの新規系統の導入により、出荷に谷がなくなり、安定生産に寄与する。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 花きグループ
TEL 0977-66-4706 FAX 0977-67-5218 住所 別府市大字鶴見710-1